HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第2部 DXに関する事例報告
Author(s)	長嶋, 岳生; 原, 亜喜子; 加藤, 舞 他
Description	国立大学図書館協会地区協会助成事業北海道地区協会令和6年度企画事業「図書館業務におけるDX化の現状と課題について」. 令和6年12月3日（火）13:15-15:30.オンライン形式. 主催：国立大学図書館協会北海道地区協会
Issue Date	2024-12-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93750
Type	conference presentation
File Information	2_Hara.pdf, 北見工大・原_DX に関する事例報告

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2024年12月3日　令和６年度国立大学図書館協会北海道地区協会助成事業
「図書館業務におけるDX化の現状と課題について」

北見工業大学におけるDXの現状と課題

～Copilot for Microsoft365の試行を中心に～

北海道国立大学機構
北見工業大学情報図書課　原　亜喜子

目次

01. 北見工業大学図書館の概要

02. 本学のDX推進体制

03. Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

04. 今後の課題

北見工業大学図書館の概要

北見工業大学

- 学生数：約2000人
- 教員数：128人
- 事務系職員数：62人

（R6.5.1現在）

北見工業大学図書館

- 蔵 書 数：約18万冊
- 閲 覧 席：415席
- 来館者数：約17万人
- 貸 出 数：約1万冊

図書館職員

- 課長
- 総務係：2人
- 目録管理係：2人
- 利用サービス係：4人

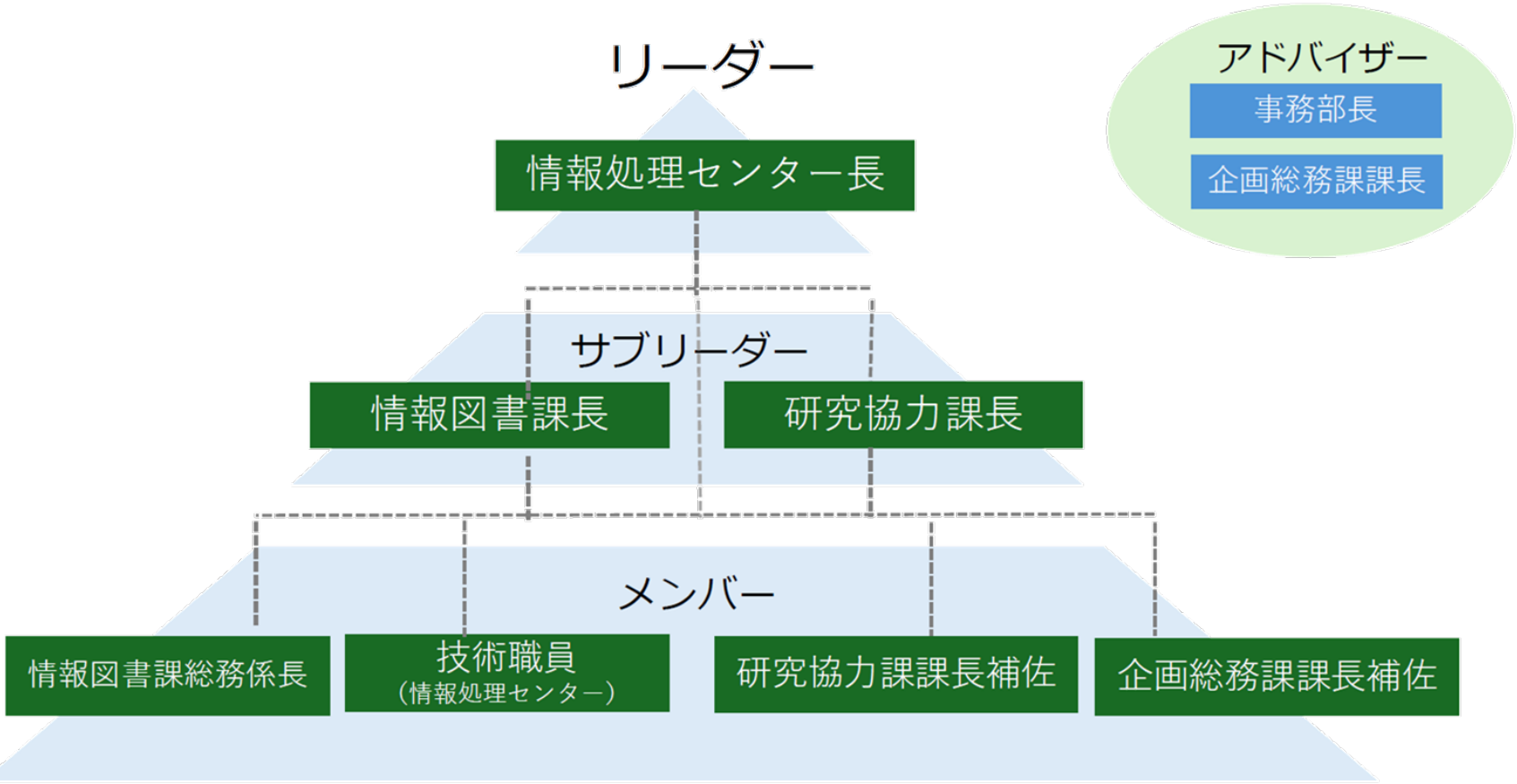
北見工業大学図書館の概要

■組織構成図（令和6年4月1日現在）

本学の事務DX推進体制

DX連携チーム

【目的】情報処理センターと事務部との協働により、デジタル技術を活用したDX推進を図る



本学の事務DX推進体制

2024年1月　事務業務におけるDXのためのアンケート調査の実施

2024年3月　DX連携チーム発足

2024年5月　SD研修実施

2024年6月　Copilot for Microsoft365試行（～R6.3）

2024年8月　Microsoft365利用ガイド公開

2024年9月　PowerAutomateDesktop研修会開催

2024年10月　Microsoft Teams説明会開催

事務業務DX戦略策定

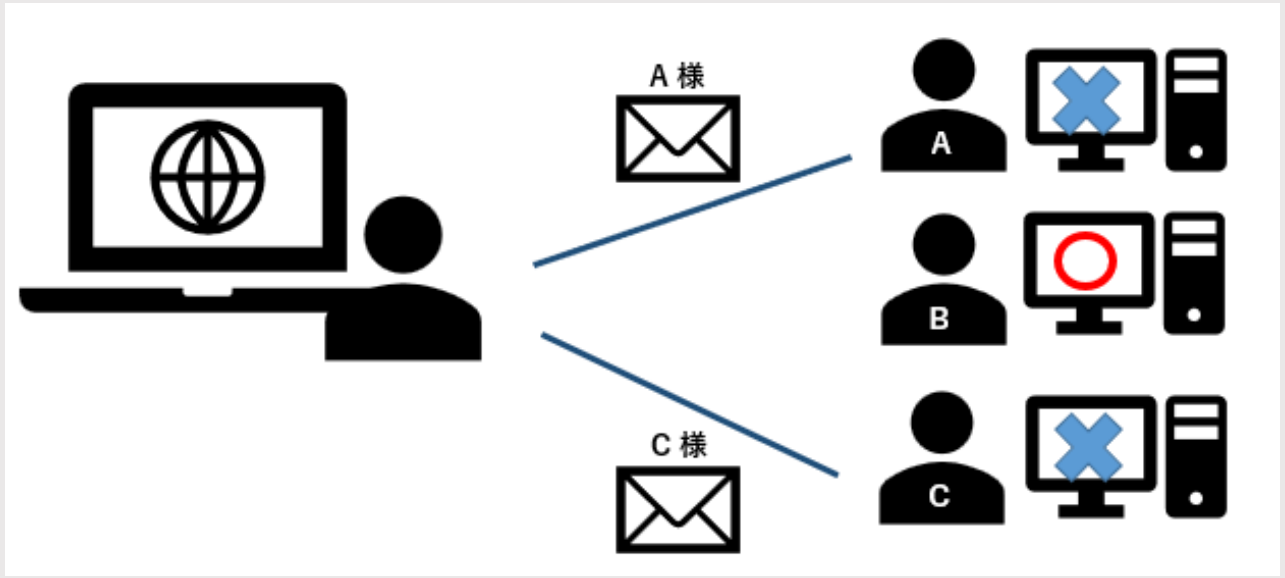
PowerAutomateDesktopコンテンツ公開

2024年11月　DX連携チームによる 事務部ヒアリング

2025年2月　PowerAutomateDesktop成果報告会

Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Power Automate



	A	B	C	E	F
1	番号	所属	氏名	受講状況	メールアドレス
2	1	●●系	北見　太郎	未受講	tosyo01@desk.kitami-it.ac.jp
3	2	△△系	北見　花子	受講	tosyo02@desk.kitami-it.ac.jp
4	3	情報図書課	北見　二郎	未受講	tosyo03@desk.kitami-it.ac.jp

所属

氏名　様

お疲れ様です。

情報図書課総務係です。

標記の件について、まだ受講いただいておりませんので、

至急受講いただきますようお願いいたします。

****

〒090-8507　北見市公園町 165

北見工業大学情報図書課総務係

（原・菊田）

Tel：0157-26-9182 / Fax：0157-24-7709

E-mail：tosyo3@desk.kitami-it.ac.jp

****

Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Power Automate

【以前】

❶学生が紙に記入して申込

❷職員が窓口で受領

❸PCに転記

❹学生にメールで詳細を通知

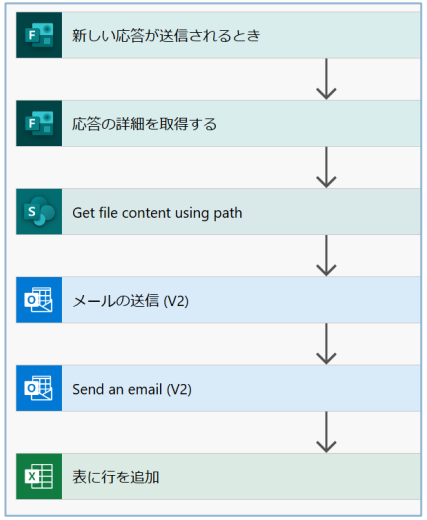
【現在】

❶学生がFormsから申込

❷詳細を学生に自動返信

❸係宛に申込があった旨通知

❹申込者一覧をDL



Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Copilot for Microsoft365とは？

▶Microsoft365にOpenAI社の生成AIを組み込み、コンテンツの作成や理解を助けてくれる「副操縦士」

▶“指示（プロンプト）”を元に、自動的に資料や要約の生成などをアシスト

▶「企業向け」であり、学習データは使い回しされない

Copilot for Microsoft365試行

▶時期：2024年6月～2025年3月まで

▶対象者：DX連携チームから７人

＊「生成AI業務利用ガイドライン」に基づく

Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Copilotで出来ることの例

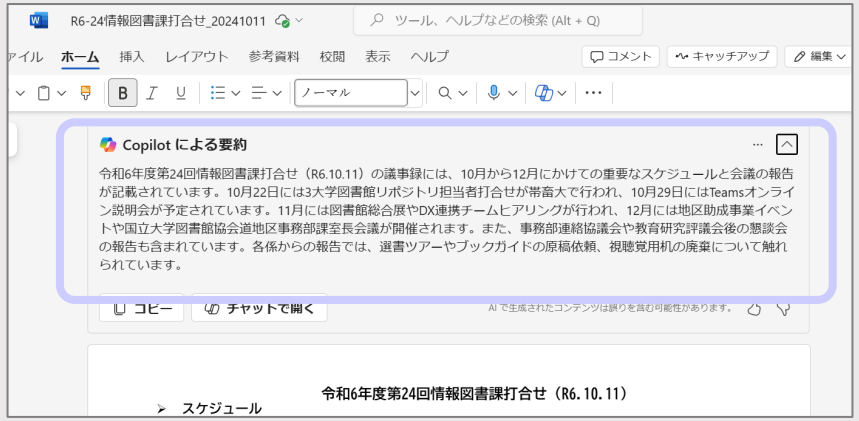
Word	Excel	PowerPoint	Teams	Outlook	Forms
翻訳・要約	データ分析	スライド下書き	議事要旨の作成	返信の下書き	アンケート案作成
アイデア出し	関数の作成	スライドの要約	会議の要約	メール要約	テスト案作成
データの分析	グラフ作成	Wordをからスライド作成	課題の抽出	スケジュール管理	

＊今後、PowerAutomateやPowerBIなどにも対応

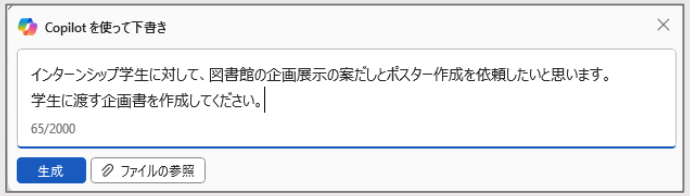
Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

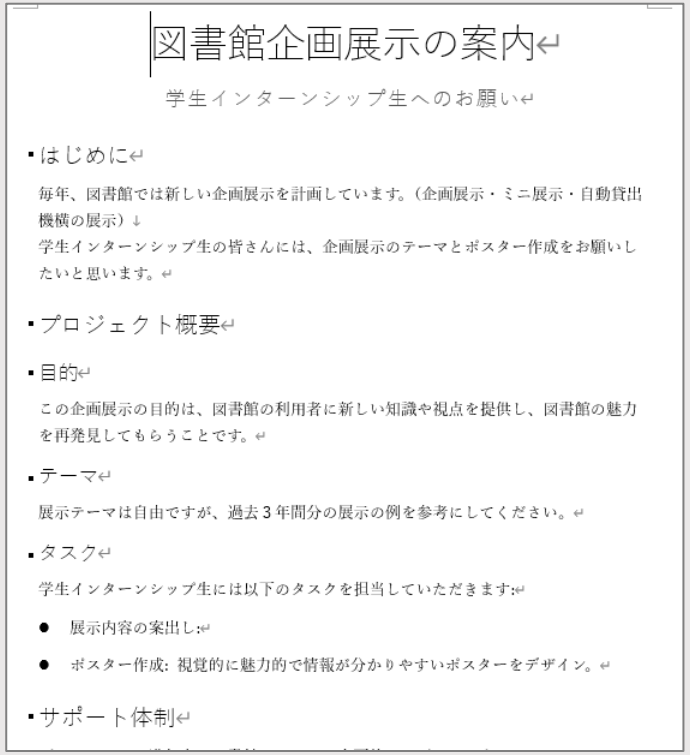
Word

要約・翻訳

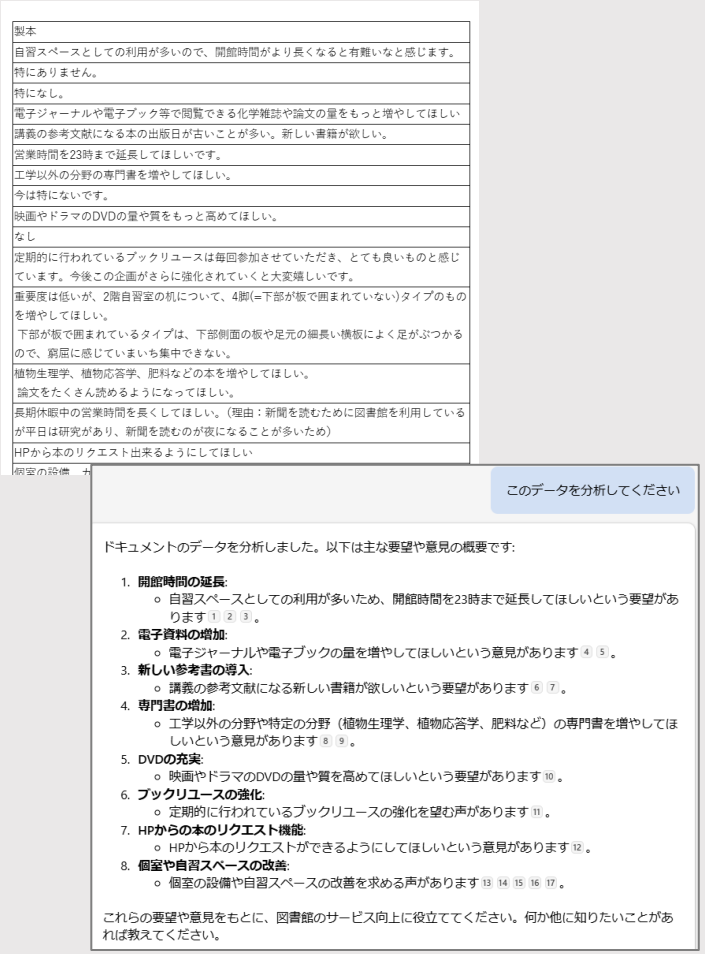


アイデア出し





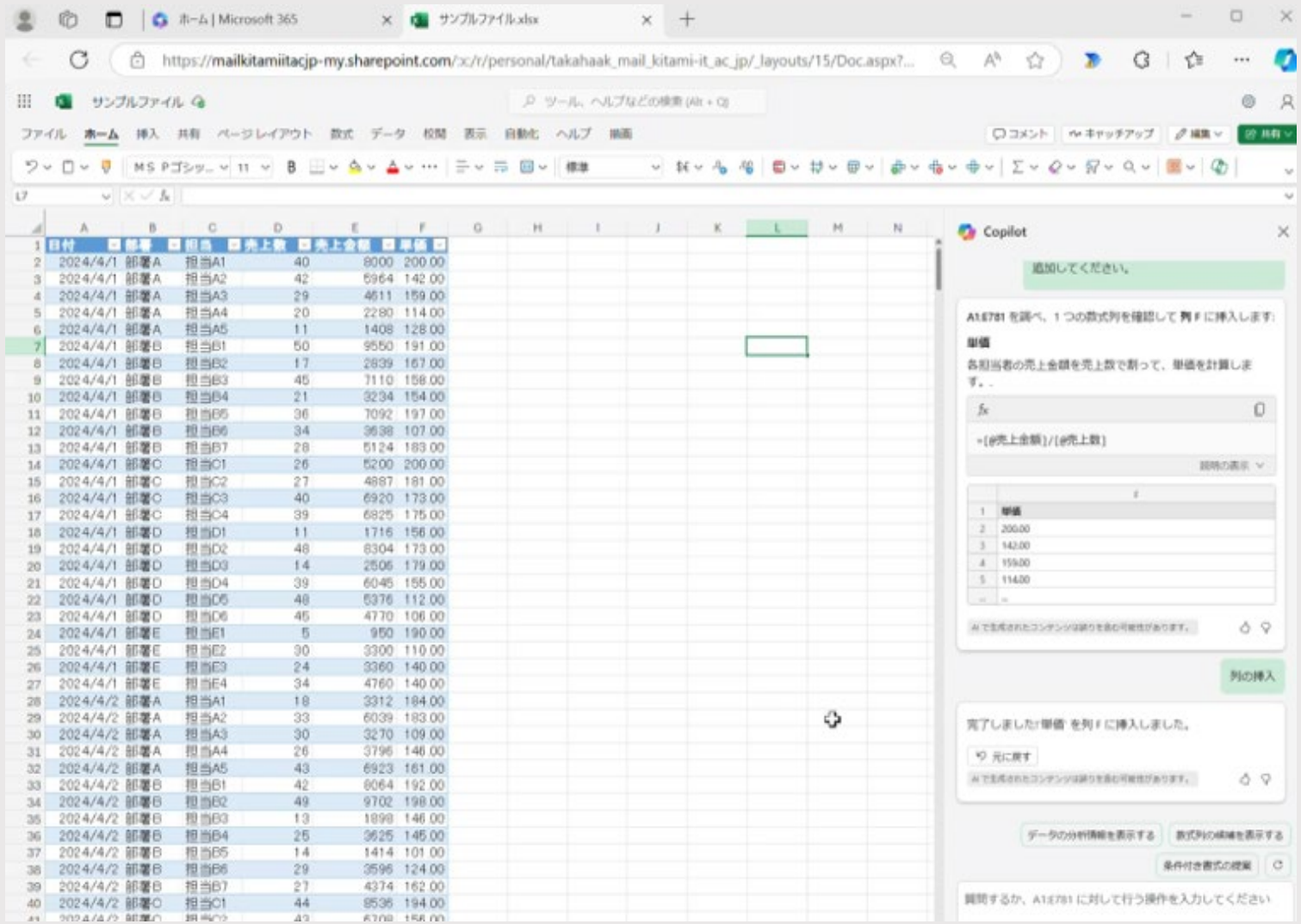
データの分析



Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Excel

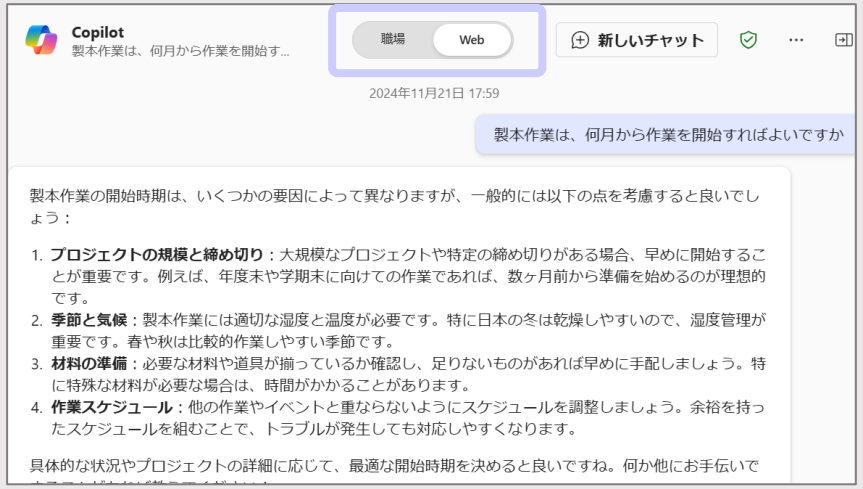
- データ分析



Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Microsoft 365 Copilot

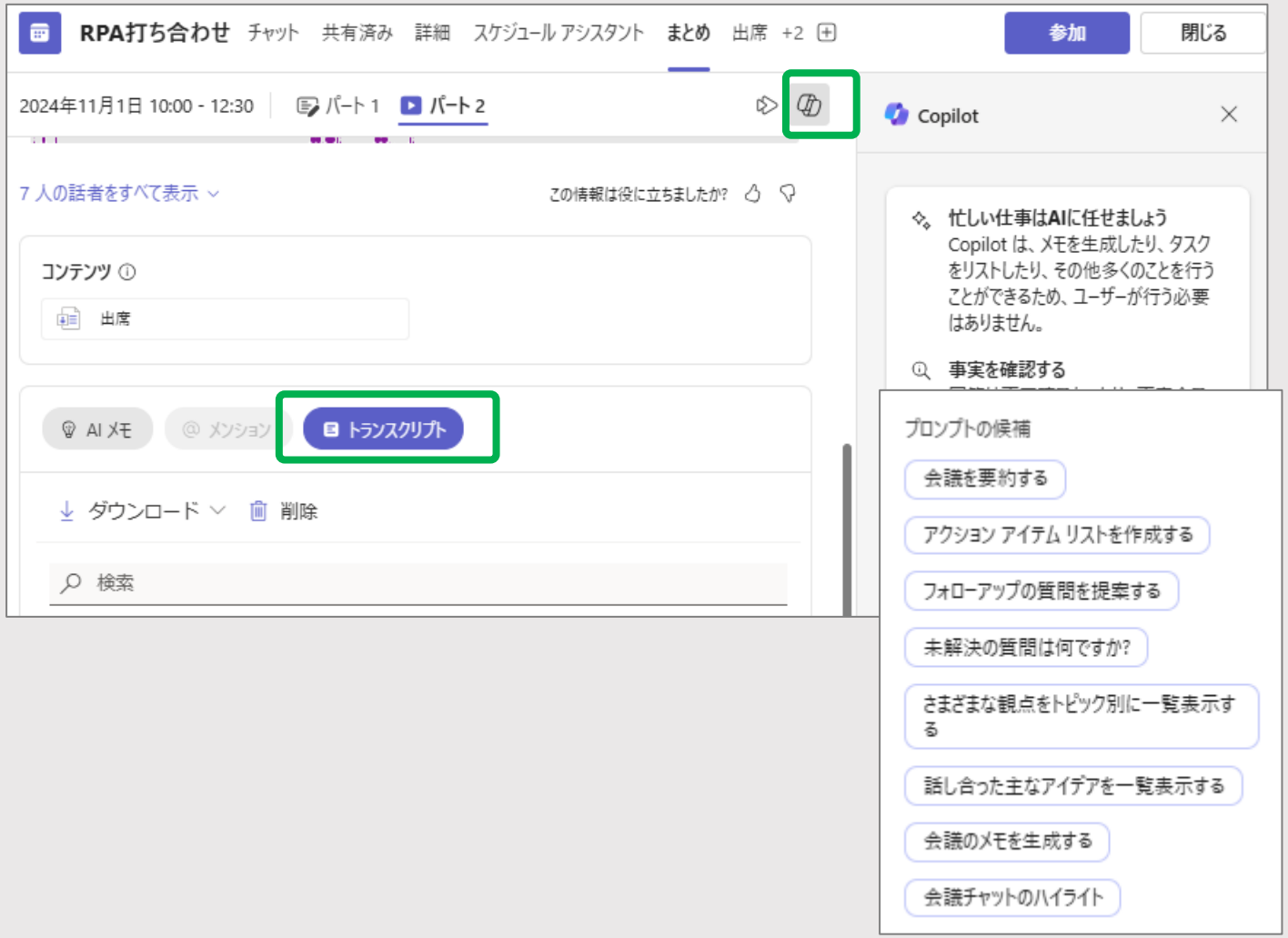
情報検索



Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Teams

議事録作成



議事録

開催日時

- 2024 年 11 月 1 日 01:00:17 UTC

参加者

- 北見工業大学: 中村さん、原亜喜子さん、柴さん
- 小樽商科大学: ○○さん
- 帯広畜産大学: ○○さん
- ○○社: ○○さん、○○さん、○○さん、○○さん

1. 自己紹介

- 原亜喜子さんが参加者の自己紹介を進行。
- 北見工業大学、中村さん、原係長、柴係長、小樽商科大学、○○さん、帯広畜産大学、○○さんが参加。
- ○○社から○○さん、○○さん、○○さん、○○さんが参加。

2. 打ち合わせの概要

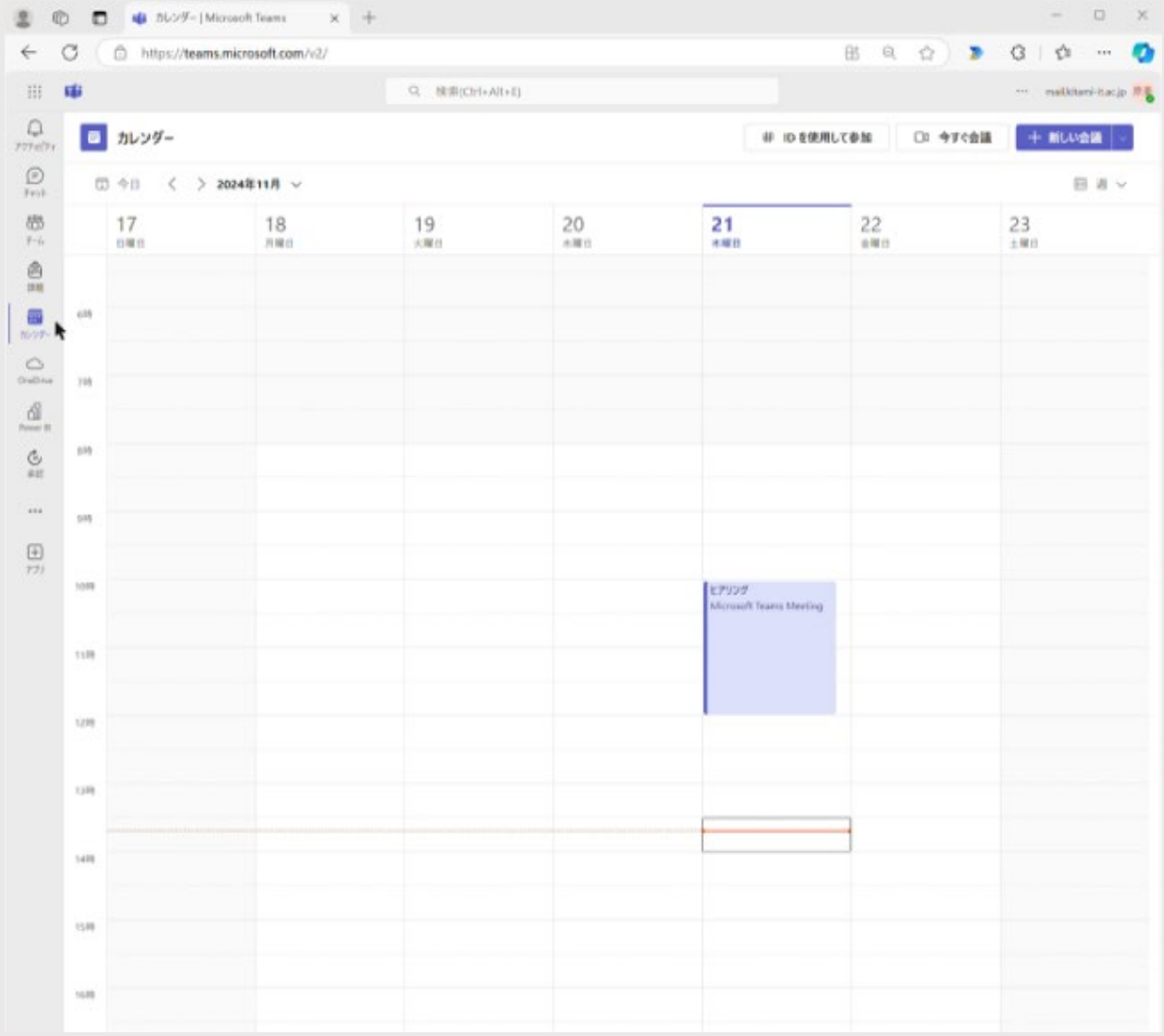
- 原亜喜子さんがオープンアクセス加速化事業の概要を説明。
- 文科省のオープンアクセス加速化事業の一環として、基幹リポジトリ業務の自動化を目指す。
- 具体的な作業内容として、論文調査、出版社のポリシーチェック、論文の寄贈依頼、論文の提出、ジャイロクラウドへの登録作業が含まれる。

3. 自動化の範囲とシナリオ

- 柴さんが自動化のシナリオを説明。
  - シナリオ 1: 複数の文献データベースから論文情報を取得し、エクセル台帳に取り込む。
  - シナリオ 2: 著者に論文提供依頼のメールを作成。

Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Teams



AI 生成コンテンツ。必ず正確性を確認してください。

主なトピック:

- **クラウドストレージの利用:** 原亜喜子さんは、クラウドストレージの利用について議論し、現在の○ギガバイトの容量が不足していることを指摘しました。彼らは、データのセキュリティと共有の方法についても話し合いました。 1
- **データの分類と保存:** 原亜喜子さんは、データの分類と保存期間について議論し、データの性格を分ける必要性を強調しました。彼らは、データの保存期間とレベルを決めることの重要性についても話し合いました。 1
- **チームズの利用:** 原亜喜子さんは、チームズの利用に関する問題について議論し、アカウントの切り替えができない問題を解決するために、帯広の○○に依頼しました。 2
- **RPA の導入:** 原亜喜子さんは、RPA の導入について議論し、他の大学での事例を参考にしながら、自動化できる業務の特定と導入の可能性を検討しました。 3
- **DX の推進:** 原亜喜子さんは、DX の推進について議論し、デジタル化の進展と業務の簡素化について話し合いました。彼らは、業務の見直しと効率化のための具体的な取り組みを共有しました。 4
- **会議の要点まとめ:** 原亜喜子さんは、会議の要点をまとめるために、AI ツールの利用について議論しました。彼らは、AI ツールが会議の要点を効率的にまとめる方法について話し合いました。 5
- **メールの管理:** 原亜喜子さんは、メールの管理について議論し、メールの仕分けや容量の問題について話し合いました。彼らは、AI を活用してメールの管理を効率化する方法を検討しました。 6

Copilot for M365やRPA等への取り組み状況

Copilot for Microsoft365の活用結果

企画・資料作成

○企画アイデア出し

○Formsでアンケート案作成

翻訳・要約

○長い文書を読み解く必要なし

○日本語以外の言語に自信がなくても大丈夫

議事録・メモ作成

○会議の議事録の作成

○会議に出席していなくても、概要がわかる

打ち合わせ・チャットの確認

○途中参加のチャットも順番に確認する必要なし

○優先度・課題の抽出が可能

データ整理・分析

○確認したい情報は、Excelで集計しなくても抽出可能

○自由記述のアンケート結果も分析

学内の情報検索

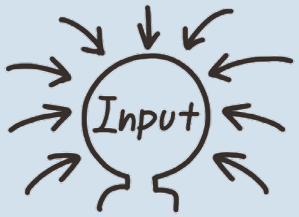
○自分用チャットボットとして活躍

○文言が一致しなくても検索可能

今後の課題

研修の提供

学ぶ

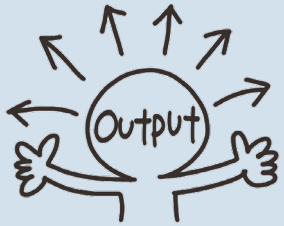


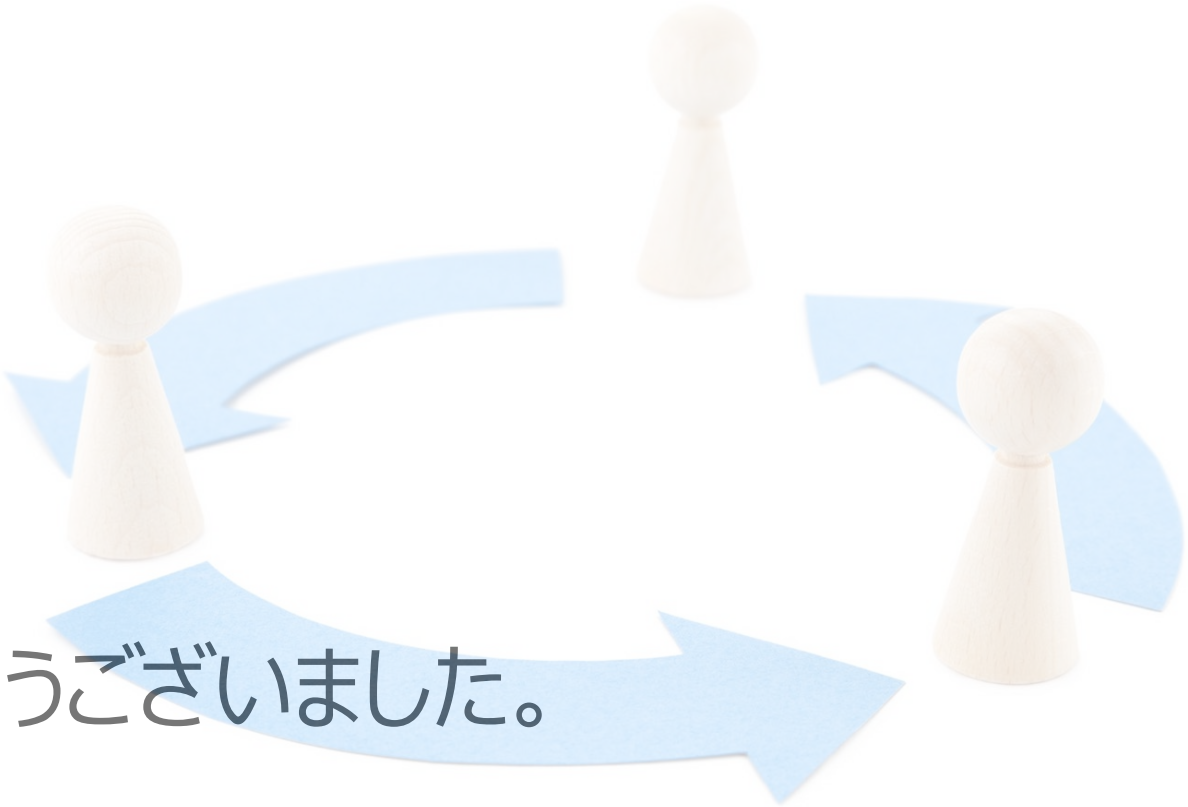
サポート体制

考える

成果の共有

成果の発信





ご静聴ありがとうございました。